

執筆者一覧

著者	北翔大学北方圏学術情報センター舞台芸術研究プロジェクト
雑誌名	Probe : 舞台芸術通信
巻	3
ページ	124-126
発行年	2009
URL	http://id.nii.ac.jp/1136/00001240/

執筆者一覧（本誌掲載順）

尾田 浩（おだ・ひろし）

釧路演劇集団事務局長

一九五五年釧路市生まれ。一九七三年釧路演劇集団旗揚げ公演に参加し劇団活動を始める。

一九九九年～二〇〇七年まで、北海道演劇集團理事長。現在は副理事長。地元取材し、釧路演劇集團を中心とした市民参加劇「警鐘」

（三部作、一九九三、一九九八、二〇〇三年上演）「アイヌ通人吉良平治郎」（二〇〇六年～〇八年上演）の作、演出。釧路市役所勤務。

片桐 茂貴（かたぎり・しげたか）

劇団東風代表

一九三年「株 北海道共立」に入社。釧路市民文化会館勤務を経て、釧路市生涯学習センター開館により同センター舞台担当。高校時代より演劇を始め、九三年高校演劇出身者を中心に「劇団東風」を旗揚げ。地域での公演活動の他、三度の札幌公演や地方公演を行い、昨年度、財団法人釧路教育藝術振興基金より新進芸術家に贈られる「第36回釧路郷土芸術賞」を受賞。その傍らプロデュース、各種コーディネートや市内団体の美術・舞台監督、舞台講座の講師も手懸ける。現在、釧路演劇協議会副会長、釧路市文化団体連絡協議会事務局長。NATVIA北創空間映像美術協会所属。

北山 晶評（きたやま・しょうへい）

北方芸術座、劇団ともしび、劇団青演に所属後、東京で活動し、劇団北芸、HBC放送劇団を経てフリーへ。一人芝居「審判」を国内三人目の演者として国内各地で上演。「耳なし芳一」を関東各県下で語る。演出家の故八田元夫に演技術、演出論と方法を学ぶ。主な出演、演出作品に「天草四郎」渚にて「新猿蟹合戦」「ロミオとジュリエット」「消えた人」「ピカの陰から」「島」「想い出を売る男」「恭々しき娼婦」「ベニスの商人」「女学者」「奴隸」等。また、毎年八月には「ピースアクション」親子の終戦記念日」を企画構成し、ライフワークの一つとして活動している。現在、芸能プロダクション、名優座講師「オフィス晶評の所 主宰」。

中村 博（なかむら・ひろし）

一九六五年、東京学芸大学卒業。釧路北陽高校、苫小牧東高校、釧路湖陵高校で演劇部顧問。一九六八年から七三年まで劇団青代表。一九七四年から七六年まで釧路演劇集団代表。

永田 政允（ながた・まさみつ）

釧路演劇協議会会長

一九六五年早稲田大学教育学部卒。釧路商業高校、釧路北高校で演劇部顧問。一九七三年、釧路演劇連絡会議事務局長。一九七三年、釧路高校演劇研究会事務局長。一九七四年、釧路演劇連絡会議が釧路演劇協議会へと

組織替えとなり事務局長を継続。一九八七年～八九年、北海道演劇講習会開催地事務局長。一九八九年、釧路演劇協議会事務局長退任。一九九〇年より九七年、転任のため釧路を離れる。二〇〇〇年、釧路演劇協議会顧問の委嘱を受ける。二〇〇一年、釧路江南高校（校長）退職。二〇〇二年、釧路演劇協議会会長現在に至る。

大貫隆史（おおぬき・たかし）

釧路公立大学経済学部准教授

一九七四年生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。主たる研究対象は二〇世紀後半のイギリス演劇。論文に「ゆがめられる記憶 幻視される過去——David Hare, Plentyとプレヒト的あるいは残滓的〈経験〉の問題」（日本文学会第三十一回新人賞論文）など。共訳書にエドワード・W・サイード『文化と抵抗』他。

加藤浩嗣（かとう・ひろつぐ）

北海道新聞記者

一九六五年釧路市生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業。大学時代に大野一雄や状況劇場第三舞台、転形劇場、夢の遊眼社などを観て、舞台芸術の魅力に目覚める。二〇〇〇年九月から〇四年六月までの北海道新聞文化部在任中、演劇評や映画評を執筆。ダンスなども含む年間最多観劇数（映画除く）は〇三年の二百四十四本（同一演目の複数観劇含む）。

組織替えとなり事務局長を継続。一九八七年～八九年、北海道演劇講習会開催地事務局長。一九八九年、釧路演劇協議会事務局長退任。一九九〇年より九七年、転任のため釧路を離れる。二〇〇〇年、釧路演劇協議会顧問の委嘱を受ける。二〇〇一年、釧路江南高校（校長）退職。二〇〇二年、釧路演劇協議会会長現在に至る。

大貫隆史（おおぬき・たかし）

釧路公立大学経済学部准教授

一九七四年生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。主たる研究対象は二〇世紀後半のイギリス演劇。論文に「ゆがめられる記憶 幻視される過去——David Hare, Plentyとプレヒト的あるいは残滓的〈経験〉の問題」（日本文学会第三十一回新人賞論文）など。共訳書にエドワード・W・サイード『文化と抵抗』他。

加藤浩嗣（かとう・ひろつぐ）

北海道新聞記者

一九六五年釧路市生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業。大学時代に大野一雄や状況劇場第三舞台、転形劇場、夢の遊眼社などを観て、舞台芸術の魅力に目覚める。二〇〇〇年九月から〇四年六月までの北海道新聞文化部在任中、演劇評や映画評を執筆。ダンスなども含む年間最多観劇数（映画除く）は〇三年の二百四十四本（同一演目の複数観劇含む）。

組織替えとなり事務局長を継続。一九八七年～八九年、北海道演劇講習会開催地事務局長。一九八九年、釧路演劇協議会事務局長退任。一九九〇年より九七年、転任のため釧路を離れる。二〇〇〇年、釧路演劇協議会顧問の委嘱を受ける。二〇〇一年、釧路江南高校（校長）退職。二〇〇二年、釧路演劇協議会会長現在に至る。

大貫隆史（おおぬき・たかし）

釧路公立大学経済学部准教授

一九七四年生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。主たる研究対象は二〇世紀後半のイギリス演劇。論文に「ゆがめられる記憶 幻視される過去——David Hare, Plentyとプレヒト的あるいは残滓的〈経験〉の問題」（日本文学会第三十一回新人賞論文）など。共訳書にエドワード・W・サイード『文化と抵抗』他。

加藤浩嗣（かとう・ひろつぐ）

北海道新聞記者

一九六五年釧路市生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業。大学時代に大野一雄や状況劇場第三舞台、転形劇場、夢の遊眼社などを観て、舞台芸術の魅力に目覚める。二〇〇〇年九月から〇四年六月までの北海道新聞文化部在任中、演劇評や映画評を執筆。ダンスなども含む年間最多観劇数（映画除く）は〇三年の二百四十四本（同一演目の複数観劇含む）。

組織替えとなり事務局長を継続。一九八七年～八九年、北海道演劇講習会開催地事務局長。一九八九年、釧路演劇協議会事務局長退任。一九九〇年より九七年、転任のため釧路を離れる。二〇〇〇年、釧路演劇協議会顧問の委嘱を受ける。二〇〇一年、釧路江南高校（校長）退職。二〇〇二年、釧路演劇協議会会長現在に至る。

大貫隆史（おおぬき・たかし）

釧路公立大学経済学部准教授

一九七四年生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。主たる研究対象は二〇世紀後半のイギリス演劇。論文に「ゆがめられる記憶 幻視される過去——David Hare, Plentyとプレヒト的あるいは残滓的〈経験〉の問題」（日本文学会第三十一回新人賞論文）など。共訳書にエドワード・W・サイード『文化と抵抗』他。

現在も年間百二十本程度の観劇を続け、劇評ブログ「シアターホリック（演劇病）」<http://ham-prosescaner/>」を主宰。

松井哲朗（まつい・てつろう）

演劇愛好者。演劇随想個人誌・季刊「続・観劇片々」発行。年金生活者。深川市在住。

斉藤光明（さいとう・みつあき）

札幌啓北商業高校

一九五七年札幌生まれ。中学で演劇と出会い、以降高校・大学と続ける。大学時代には、大学サークル、地元アマチュア劇団、プロ劇団の研究生などを経験。

一九八〇年より旭川女子商業（現旭川明成高校）で演劇部顧問を務め、現在は母校札幌啓北商業高等学校で顧問を務める。高文連石狩支部演劇専門事務局長。

飯塚優子（いづか・ゆうこ）

アートコーディネーター／赤い実企画代表、レッドベリスタスタジオ主宰

スク립プター、コピーライターを経て、4丁目プラザ企画宣伝部入社。4プラホール、駅裏八号倉庫の運営を通じて地域演劇のマネジメントに携わるとともに、札幌コンサートホール Kitara 建設に関する市民提言団体・STPや北海道演劇財団設立にいたる市民活動などの事務局を担当した。現在は居住する西区八軒で演劇を地域社会に生かすことを模

索している。札幌学院大学講師。

安念優子（あんねん・ゆうこ）

一九五二年留辺蕊町で生まれ。江別高校で演劇と出会う。一九八一年、夫と小劇場ドラマシアターどもを開くと共に、劇団ドラマシアターどもを旗揚げする。劇団での役割は、役者と制作。ライフワークは、平和をテーマにした二人芝居「ババ漫才」の出前公演。普段は喫茶ドラマシアターどもの店主。（江別市二条二丁目七一・ドラマシアターどもIV）

斎藤ちず（さいとう・ちず）

演出家・アートマネージャー／NPO法人コンカリーニョ理事長

愛媛県生まれ。北海道大学医学部中退。北海道大学在学中に演劇を始め、一九九五年から演出活動とともに小劇場フリースペース運営開始。ホールマネージャーとして、ダンス公演やフェスティバルのプロデュースする。二〇〇四年、札幌市西区より「ターミナルプラザ」ことにパトス」の管理・運営を委ねられ、現在は、劇場再建のための設計から資金調達までの活動を行うとともに、さまざまな文化プログラムの企画立案、運営を行っている。

藤村智子（ふじむら・ともこ）

北海道文化財団コーディネーター。

二〇〇六年三月まで札幌市芸術文化財団に勤務し、主に札幌市教育文化会館で、映画、音楽、

演劇、能・狂言などの自主事業を担当。札幌芸術の森美術館副館長、札幌市教育文化会館事業課長を経て退職。同年五月から北海道文化財団勤務。北海道演劇財団評議委員、札幌劇場審査委員。「能を楽しむ会・札幌」事務局長。

平田修二（ひらた・しゅうじ）

一九四七年神奈川県生まれ、一九七五年北海道大学理学研究科修士課程修了。同年に、演劇鑑賞会北座（当時の名称は札幌労演）事務局次長に就任、九六年まで事務局長、理事長を歴任。九六年北海道演劇財団設立と同時に事務局長に就任。九八年以降のTPS全作品をはじめ、多くの演劇公演のプロデューサーを務めている。

和田研一（わた・けんいち）

演劇専用小劇場BLOCH／スタジオオウノ代表
二〇〇〇年に閉館した札幌で唯一の演劇専門劇場「ルネッサンス・マリアテアトロ」の元マネージャー。「マリアテアトロ」は本多劇場グループの一つとして「本多小劇場」の名前で一九八六年に開場。現在手がけている「BLOCH」もまた本多劇場と提携しており、地元劇団の公演以外にも、札幌・東京の作品の各種プロデュース公演も行なっている。

鈴木静悟（すずき・せいご）

一九七六年（昭和五十一年）、舞台照明家。新村訓平氏に弟子入り。舞台照明を学ぶ。八二年（昭和五十七年）、㈱ライズ（代表新村訓平氏、舞台照明を軸とする舞台スタッフの会社）の設立に参画。主として、演劇の照明を手掛けるも、一九九三年（平成五年）、退社してフリーとなり、現在にいたる。現在、日本照明家協会会員、北劇空間映像美術協会員

五ノ井浩（ごのい・ひろし）

㈱ぼりぞんとあと
音響部主任。帯広市出身。平成元年入社。以降、舞台・イベント等の音響オペレーター・プランナーを務める。現在、日本音響家協会北海道支部事務局長。

吉田ひでお（よしだ・ひでお）

アーリオ工房
一九六六年札幌生まれ。一九九〇年北海道教育大学札幌分校特設美術科卒。在学中よりTVCM広告映画演劇等の特殊美術、メイク、造形を手掛け卒業後「アーリオ工房」を名乗る。アミューズメント、博物館、TVドラマやバラエティ、とあらゆるジャンルで活動中。

服部正巳（はつとり・まさみ）

ステージコンサルティング アカンパニー
一九五二年苫小牧市生れ。七九年に苫小牧市民会館の技術職員として、苫小牧市民会館を

管理運営していた苫小牧振興公社に入社。照明・音響・舞台という仕事の中で、音響技術の奥の深さに徐々に魅力を感じるようになっていきました。入社時の動機は不純で、学生時代に演劇部の裏方をしていたという安易な考えで入社しましたが、当然甘かったですね。以来ずいぶん勉強したものです。二〇〇〇年社内異動で本社勤務となりましたが、音響の仕事というか舞台の仕事をお忘れることができません。二年に退職し独立。現在に至っています。日本音響家協会北海道支部会員。日本音響家協会一級音響技術者。舞台機構調整（音響機構調整作業）試験検定員。

森一生（もり・かずなり）

北翔大学短期大学部非常勤講師
札幌静修高等学校演劇部顧問就任（昭和42年）以来、長年にわたり高校演劇指導に尽力し、同校を二度の全国優勝にまで導いた。全国アマチュア演劇協議会の創作脚本賞を受賞するなど、高校演劇の中心的存在として活躍してきた。札幌市文化奨励賞・北海道文化奨励賞受賞。

村松幹男（むらまつ・みきお）

北翔大学教授
北海道北見生まれ。高校時代より演劇をはじめる、北大のサークル「劇団アトリエ」を経て、大学在学中の一九八三年に「デパートメントシアター・アレフ」の旗揚げに参加。アレフ

の終了後（九〇年）、九二年に「Theater・ラグ・203」旗揚げ。代表。劇作・演出・役者。

岡元眞理子（おかもと・まりこ）

北翔大学教授
声楽家、ハンブルク・グロストナハト市など国内外リサイタル12回開催、中国瀋陽国際音楽祭、昌信大学演奏会、スウェーデン・レント大学演奏会など、世界18カ国30ヶ所で演奏をしている。ARD（ドイツ）ABC（オーストラリア）放送など国内外出演多数。

教育活動として、ウィーン少年合唱団との夏休み合宿と合同演奏会・指導も行った。ゲイテ「野ばら」の歌唱研究など。北海道二期会会員、北海道国際音楽交流会員、日本声楽発声学会会員、日本生涯教育学会会員、札幌音楽協議会会員、北広島音楽協会会長。

大林のり子（おおばやし・のりこ）

北翔大学短期大学部准教授
演劇学・演劇史。大阪大学大学院文学研究科にて演劇学を専攻。主に二十世紀初頭の上演や舞台美術について、上演史・演出論・演劇論・批評言語などの分析を通して、歴史的読み直しを試みる。近年のテーマは、ヨーロッパ演劇のアメリカ移入に関わった演出家および興行主、パトロンの人的・文化的交流と異文化移入の問題。また、劇場スタッフの育成に関する歴史や現状の調査研究を進めている。